

株式会社ビージーシステム 様

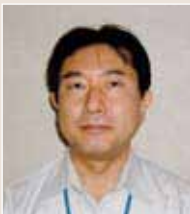
インターネット／電子メール監視ツールの導入と コンプライアンスプログラムの遵守で効果的な運用

ISMS認定取得も視野に入れた管理体制を実現

ご担当者様



株式会社ビージーシステム
統括業務マネージャー
尾崎 眞氏



株式会社ビージーシステム
システムサービスチーム
リーダー
中村 達哉氏

弊社担当営業



株式会社ハンモック
ネットワークソリューション事業部 営業部
営業課 第二グループ 主任
野島 栄一

導入先企業データ



株式会社ビージーシステム

所在地：埼玉県川越市笠幡85-3
設立：1991年10月16日
資本金：2,000万円
取締役社長：工藤 英武
URL：<http://www.bgsystem.co.jp>

システムの広がり ビジネスチャンスを広げる

埼玉県中央部の市民生活を支える武州ガス。公共性の高い武州ガスの業務を中心にシステム開発・受託処理を行っているのがビージーシステムだ。ビージーシステムでは、企業における業務の効率化・高度化にかかせない情報技術をお客様のニーズに基づいて「責任」をもって応えている。同社では、2004年8月に社内からのインターネットアクセス監視・分析ツール「SurfWatcher」、電子メール監視・分析ツール「MailWatcher」を導入し情報セキュリティ向上のためのツールとして活用している。どのように「SurfWatcher」「MailWatcher」が導入されたのか、導入後どのように運営しているのか、統括業務マネージャーの尾崎眞氏とシステムサービスチームリーダーの中村達哉氏に話を伺った。

業務スタイルにあった 「抑止」ツール

「当時弊社では、情報セキュリティ強化の観点から、便利さの反面で、さまざまなリスクをはらんでいる

『社員のインターネットや電子メールの利用方法』について問題視しており、各種規程の整備のほかに、より具体的な抑止策を検討していました。受託処理を業務としているので、お客様に信頼、安心してもらえるセキュリティ環境を確保することは必須です。また、セキュリティだけでなく、生産性の側面からもインターネット、電子メールの適切な利用を促すような何らかの対策が必要である、と感じていました。」と尾崎氏は語る。

そこで同社ではツールの導入検討を始めた。「当初インターネットの閲覧にURLフィルタリングを検討しましたが、弊社の広範な業務の中で様々な情報収集が必要となるので、弊社には適切ではない、と判断しました。もっと効率的な方法がないか、と模索していた中で「SurfWatcher」、「MailWatcher」を見つけ、これだ！と思いましたね。」と中村氏は当時を振り返る。

「SurfWatcher」「MailWatcher」ともにモニタリングによる抑止力を狙った製品である。監視対象がSurfWatcherでは社内からのインターネットアクセス、MailWatcherでは社員の送受信電子メール

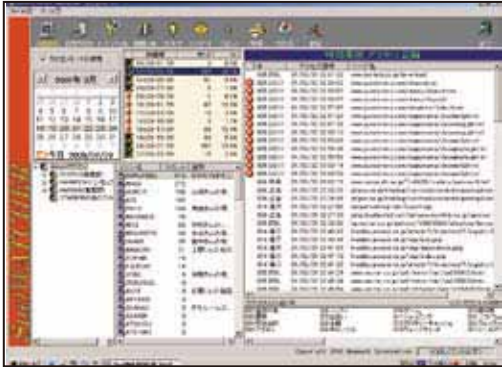
ビージーシステムの主な業務

- 周辺機器販売
- パソコン研修
- ホームページ作成
- システム開発
 - 各種業務管理システム／顧客管理システム
 - 販売管理システム／営業支援システム
 - 入庫管理システム／売掛金／入金管理システム
 - 受付システム／工事進捗管理システム
 - 舗装工事システム／その他多数
- 受託処理



※掲載している画面は画面例です。

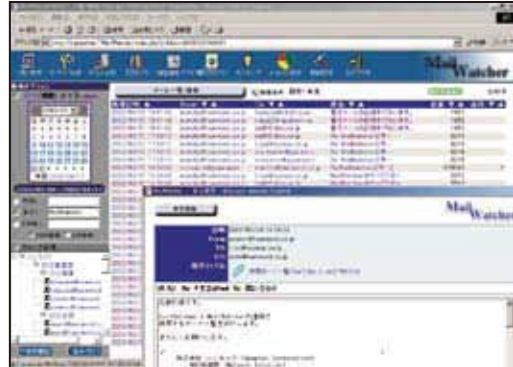
■Surf Watcher分析画面



【クライアントごとの行動分析(マイクロ分析)】

インターネット利用者の1日の行動を分析できます。どの時間帯にインターネットへのアクセスが集中しているかなど一目で把握できます。

■Mail Watcher分析画面



【一覧・検索画面】

電子メールの利用状況を一括で管理できる他、件名や本文、アドレスからの検索・分析が可能です。また添付ファイルはローカルに保存することもできます。

である。SurfWatcherの開発当時、WEBアクセスを管理するにはフィルタリングツールを用いるのが一般的であった。しかし、フィルタリングツールではWEBアクセスが遅くなる、禁止サイトデータベースの更新が管理者の負担になる、禁止サイトに漏れがあったり、必要なサイトにアクセスできない、といった問題があり、企業のスタイルによっては不都合があった。ビージーシステムのように、より効率的で適確な管理方法がないか、とフィルタリングツールとは別の解決策を探していた企業は多かったのではないだろうか。そのようなニーズから、「禁止から抑止へ」をコンセプトに生まれたのが「SurfWatcher」である。その技術とコンセプトを電子メールの監視に應用して「Mail Watcher」が誕生した。

「導入に際して決め手になったのは、簡単な操作で運用できること。面倒な設定なしにログ監視・保存ができ、データの分類・レポート機能が充実していました。また低価格で導入できることも魅力的で「SurfWatcher」「MailWatcher」を指名導入しました。」と尾崎氏は語る。

コンプライアンスプログラムと併せ高い効果

導入後の運用としてはインターネットや電子メールの利用を、会社が監視していることを全社員に通達し、私的利用を抑止する方法をとった。同時にコンプライアンスプログラムを導入、就業規則を変えることにより処遇にもダイレクトに反映するようにした。

実際「SurfWatcher」「MailWatcher」を導入した効果はどうだったのだろうか。

「導入前は、社員が就業時間中にインターネットを使ってどのようなことをしているのか、確認する方法がありませんでしたが、導入後にモニタリングすると、仕事に関する情報収集であることがわかり安心しました。社員への事前アナウンスの影響かも知れませんが・・・」と中村氏はコメントする。「また驚いたことは、不要な電子メールの利用がなくなったことです。」

「コンプライアンスプログラムの導入など社員教育を充実すると同時にツールとして「Surf Watcher」「MailWatcher」を導入したことは、インターネットや電子メールの持つリスクを低減させ、本来の目的での利用を促進する「ツール」として非常に効果的でした。加えて電子メールの監視については個人情報流出防止対策として充分

に機能しています。」と中村氏は導入効果を実感している。

今後について

「現在は個人情報保護法の施行により、情報セキュリティ対策をより強固なものにすることに注力しています。コンプライアンスプログラムを導入して社員一人ひとりの意識づけを図っています。目下、ISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)の認定取得、JQA(日本経営品質賞)へチャレンジしています。」

顧客からの信頼を裏切ることのないよう、情報セキュリティを常に向上させるビージーシステム。そんな意識の高い企業に支持される製品であり続けること。それがハンモックの目標であり、製品開発の原動力でもある。